



高島学園

中学校だより 【第3号】

令和6年 5月 20日

TEL36-0079 FAX36-8012

【文責 校長 浦島 容子】

5月の風が吹きます

大溝祭りが盛大に行われました。5基の曳山の巡行は、堂々たるものでした。小中学生がそれぞれの地域で大人の方たちとともに創り上げ、素晴らしい光景です。また、他地域からも曳山を曳くボランティアで参加する生徒がありました。

高島の伝統の継承とさらなる活性のため、地域一丸となる皆さんの姿は、とても感動的でした。

連休が終わり、こんな話が舞い込みました。



今日は、朝と夕方に気持ちがあっとする出来事がありました。5月7日からバスの時間改正に合わせて、最寄りのバス停から近江高島駅まで乗車しています。

たまたま今朝はバス待ちの時間があり、バス停でほうきではいていました。すると、中学生の男の子が「おはようございます。ありがとうございます。」とあいさつをしてくれました。近所のおばちゃんにお礼が言えるのってすごいなあと思っていたところ、帰りも同じ子がバスを降りたところで声をかけてくれました。

「これ、落ちてました。」膝に置いたハンドタオルをうっかり落としてしまったようです。「ありがとうございます。助かりました。」とお礼を伝えて、帰り道、ほんの短い時間に自分の所属している部活のことなどを話してくれて、良い時間が持てました。

地域での高島中学生の姿は、とても生き生きしています。

一ヶ月が経ち、各学年、各クラスの動きがとてもスムーズです。



左は、あるクラスの生徒が帰った後の教室です。この教室の学年は、去年もでしたが、どの机の上にも何も置かれておらず、整然と整頓されています。次の日も、その次の日も同じでした。誰かが整頓しているのでしょうか。

科学工作部から、本年度は「工作部」と改名しました。工作部が、今年の階段アートを完成させました。(右写真) 今年、淡いグリーンを基調とした、人の心をなごませる作品となっています。力作です。5月、新しい風が吹いています。



8年目のCS～どこからでも、どこまででも、どの間でも～

野菜の苗がたくさん植わり、豊かな「おとりファーム」となりました。日ごとに苗の背丈が大きくなっているように感じます。大事に、大事に育ててもらっています。

しかし、やっぱりサルに狙われます。アミを二重にして、板を置き、石を置いて、なんとか死守しようとしています。おとり学級の生徒も一緒に頑張っています。



8年授業

引き続き朝読書を見守っていただいています。

「朝の25秒と10分」は、子どもたちの主体性の育成に向けて大切にしている時間です。また、子どもの主体的な学びが深まるようにと、授業を参観してくださっています。多様な方々がいてくださることは、子どもの豊かな成長につながります。

「～どこからでも、どこまででも、どの間でも～」

よろしくお願いします。

令和6年度 総会 思いを一つに

生徒会「勇断」

PTA「できることから始めよう」

様々な団体の総会が開かれる時期です。

高島中生徒会も総会で、本年度の活動方針と計画を示しました。質問者の生徒とそれにこたえる生徒会役員とがしっかりやり取りをしました。その結果、今年は「勇断」をもとに全校生徒が取り組んでいくことが承認されました。

次の日には、PTA総会が開かれました。PTA活動方針は、「できることから始めよう」。会長の方針に込めた思いに一生懸命耳を傾ける保護者の皆さんの温かい拍手で承認されました。

「みんなでより良い学校を」という生徒の思い、「みんなで子どものより良い成長を」という保護者の思いを一つにしました。



感動の活躍 春季総体

春季総体、どの運動部も一丸となって勝利を目指して戦いました。吹奏楽祭での吹奏楽部の演奏は最高でした。相手チームへの礼儀、お互いを励ます声かけ、会場での過ごし方は、どのチームにもまさるものでした。素晴らしい活躍です。

トランポリンの選手が、オリンピック出場権を得て、「オリンピックの切符を獲得できたのは、自分の人格を含めて鍛え直そうと思っ、取り組んだからだと思います。」と話していました。各会場で生徒たちの姿を見て、この選手の言葉を思い出しました。これから9年生にとって最後の夏季大会に向けての取組が始まります。

